会報

2018.02.15

第63号

戦没船を記録する会

〒343-0025　埼玉県越谷市大沢 4-15-1-4－207
電話・FAX　048-965-6820
郵便振替　00160-6-719515
URL　http//www.ric.hi-ho.jp/senbotusen/
E・mail　senbotu@ric.hi-ho.ne.jp

目　　次

新しい年をむかえて	1
会費制移行にご協力・ご理解を	1
沖縄展示会初開催(栗原三郎)	2
問い合わせへの対応	3
沖縄で初めてのパネル展示(片岡和夫)	3
本会の活動日誌	4

新らしい年をむかえて

戦没船を記録する会
会長　新関　昌利

2018 年を迎え本年の抱負を述べさせていただきます。

昨年は、久しぶりに総会を開き、役員を改選して新たなスタートを切りました。本年も引き続き総会で決定された方針の実行に邁進してまいりたいと思います。

戦後 72 年が経過し、戦争経験者が減少して*ゆく*中で、その記録を保存し、伝承して*ゆく*活動は一層必要性が増していると思います。

これまでは戦時船舶と船員の記録収集をメインに据えて活動してまいりましたが、この貴重な資産を広く社会に訴える活動に軸足を移して、全国各地で展示会を開催し、会報やネットで訴えてまいりたいと思います。

そのため新たに伝承する人を増やし、記録を伝える活動を広げてまいりたいと思います。

このような活動は、資金的な裏付けが必要であり、次年度から会費制に移行し財政基盤を確立することが昨年の総会で決定されました。

皆様の一層のご理解・ご支援とご協力をお願い申しあげます。

会費制移行に　ご理解・ご協力を

昨年の総会にて「会則第 5 条（会員)」を改定し、「年会費を 3,000 円とする」ことが決まりました。

内容は次の通りです。

第５条（会員）この会の目的に賛同する者を会員とする。年会費は 3,000 円とする。会員は会の事業に協力するものとし、この会の会議、会の事業に参加できる。また会の所有する資料などを利用することができる。

改定の理由は、

① 会の財政が厳しい状態に陥っている。
② 会員と会費をより明確化し、会運営と活動を安定・発展させる必要があること。

にあります。

総会では「現在でも会員への連絡体制は全く十分ではなく、カンパを続けられている人や会活動に関心を寄せられている方達との連携は不十分である。会員に十分に周知・説明し、ご理解を賜るよう最大限努力すべきである」との指摘があり、「実施は 2018 年 4 月から」となりました。

関係者の皆様には、会員として再登録され年会費 3,000 円を納入されますよう、切にお願い申し上げます。引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員登録申請用紙と会費納入の振込用紙を同封させていただきます。

―沖縄展示会初開催―

悲惨な過去を記録
明るい未来を

（事務局長：栗原　三郎）

沖縄海上美術展に初参加

本会は毎年度日本国内の６～10 箇所でパネル(本会が独自に調査・作成)展示会を開催して来た。

その一つとして、全日本海員福祉センター主催の「海上美術展」への参加があり、2017 年度は「海上美術展」が 11 月６～８日沖縄(宜野湾市の沖縄コンベンションセンター）での初開催となったので、多少の問題を含みながらも現地の要請もあり、沖縄での初参加・開催することとした。

類似点の共有に励まされ

沖縄は先の太平洋戦争で日本国内で唯一の地上戦の地となり、20 万人(住民４人に１人)以上の死者が出る戦禍に見舞われ、戦争観・被害感をはじめ多くの点でわれわれ日本船員との類似点が感じられた。

以前、沖縄在住者から本会に「沖縄関係の戦没船員の調査をする運動をしているが、役所や靖国神社に問合せをしたが色よい返事がない中、貴方のＨＰ見た」として本会に「彦山丸とその戦没船員ついて」の問い合わせがあり、返書と資料(別記「問い合わせと回答」参照)を送ったことがあった。

その後、昨年 11 月に沖縄で海員組合が開催する全国大会に合わせ、戦没船のパネル展示会開催を知らせたところ、「是非開催を実現し来沖して欲しい、その際沖縄関係の資料を持参願いたい」との連絡があり、初参加・遠方・経費・要員・準備不足等の問題を含みながらも、必要性と類似点の共有性に後押しされ沖縄での初開催に漕ぎつけた。

海員組合と地元協力者の尽力で開催

海員組合には展示会場の提供・設営、パネルの輸送・飾り付け・保全その他全般にわたり協力を得た、本会は「海なお深く」とＤＶＤセットの販売協力をするなどの相互協力を行った。

沖縄の協力していただいた方には地方紙への連絡、関係資料交換その他で大変お世話になり、地元紙による本会展示会の取材記事の掲載もあり(別掲)、展示会参観者促進に寄与していただいた。逐一確認は取れなかったが「新聞を見て来ました」との人もかなりおり、船員 OB も含めて 60 人以上に達したものとみられる。

その他の参観者としては、海員組合大会代議員・海員組合大会関係者(傍聴・運営・管理関係等)・海友婦人会員・海上美術展出品者等があげられるが、これらの方は過去に何回か参観された方も居る模様でそう多くはなかったとみられる。

3 日間総参観者は 120 人程度であった。

展示したパネルの内容

１、海の平和を願って
２、太平洋戦争の戦況と漁船の哨戒区域
３、太平洋戦争と船舶関係年表
４、太平洋戦争船舶被害
５、海域別戦没船舶・船員数（表・図）
６、年月別戦没船員数・戦没船舶数推移(図・表)
７、年齢別戦没船員数と構成率
８、本籍地別・所属別戦没船員数（表）
９、制海権なき出撃、ヒ 86 船団の最後
　血の一滴より油の一滴
10、トラック海域の海底に眠る戦没船員の遺骨と
　海の墓標（沈没船写真）
11、戦時中の「朝日新聞船員求人広告」
　(1942 年・1945 年)
12、軍当局から会社・市町村宛の戦没船員通知
13、戦没船アルフォト集合パネル(9 隻)
14、攻撃される日本船舶(大久保画伯絵) 3 枚
15、「民間船員を予備自衛官補とすることに断固反
　対する声明」（海員組合声明）
16、民間船員・船舶の有事動員体制づくりに抗議し、
　その廃止を求める。（海運９条の会声明）

ＤＶＤの視聴

放映時間 40 分のＤＶＤをプロジェクターで随時放映したが、比較的若い人の視聴が多かった。

海員組合が昨年７月にこの DVD を記録誌「海なお深く(上・下)」とセットで発行し、全国の中学校向けに約１万セットを配布した、また全国の書店でも販売しているので、その普及が期待される。

参観者の反応

○　沖縄の人が多く死んだとは聞いていたが、船員さんも沢山死んだんだね。あの当時は「降参するな！

捕虜になるな！　死ぬまで戦え！」と言われていたからね。

○　幼児も泣き止まぬ場合は米軍に見つかるとして日本軍に殺されるか、親がわが子の口を押えて殺したケースもあった。

○　降伏しなければ火炎放射で皆殺しにされた。

○　身投げした人、自害した人、日本軍に撃ち殺された人もいた。

○　殺し合い専業の軍人より船員さんの死亡率が多かったこと、20 歳以下の若い船員さんが多く戦没したことを初めて聞いた。

○撃沈されることが分かっている所へ何故向かわせたのか。

○　沖縄の地上戦、広島・長崎の原爆投下以前になぜ降伏・終戦しなかったのか？

○　何故沖縄に米軍基地が多く、その解消が進まないのか？

○　英国では国家として社会的に船員・戦没船員関係資料整備・展示・教育等が行われているようですが、日本ではあまり行われていないのは何故？

○　日本政府は何故沖縄の民意を尊重しないのか

○　戦争・人殺しのための沖縄米軍基地を子や孫に残すわけにはゆかない。

○　沖縄関係の整備された資料が欲しい。

(2017/11/7 琉球新報の記事)

船員の美術展
宜野湾で開幕

戦没船の記録も

全日本海員福祉センター（東京都港区）が主催する「海上美術展」が宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで6日、開幕した。美術展では第2次世界大戦中で徴用された船や、亡くなった船員の記録の展示会も行われている。展示会は8日まで。主催者らは多くの来場を呼び掛けている。

（2面に関連）

戦時中の船の記録展では埼玉県の「戦没船を記録する会」が集めた船の写真、亡くなった船員の人数などが記載されたパネルなど約20点が展示されている徴用された民間船は、人員や物資の輸送などに充てられたが、軍船に守られる体制がなく、約85％が戦闘に巻き込まれて沈められたとされている。同会によると、全国で6万人余、県人730人の船員が犠牲となった。

記録する会監事の片岡和夫さん＝写真右＝は「大戦中、船員は2人に1人ぐらい犠牲となっている。ぜひ多くの人に足を運んでもらい、悲惨な経験をした戦時中の船員の歴史について知ってほしい」と語った。

問合せへの対応

昨年７月に沖縄に住む方から、「第二次大戦時沖縄海域で戦没した彦山丸、金剛丸の戦没者名を調べている」と本会に協力依頼があった。

彦山丸は、1945 年 1 月 22 日米軍の攻撃を受けて沈没したが、沖縄県本部(もとぶ)町健堅(けんけん)に遭難者 14 人（軍属）の墓標が建てられていた。このことは行政も知らず、記録に残っていないため、遺族には通知がないままとなっていた。

それが昨年６月にアメリカの「LIFE」誌（1945 年 5 月）に 14 名の墓標の写真が発表されていたことが発見された。遺骨は今もそのままとなっていて、発掘収集される予定となっている。

14 人の中に戦争に動員された 2 名の朝鮮人がいて 1 人は遺族の方と連絡が取れている。

住民の証言では金剛丸も同じ日にやられたということである。

遺骨収集を促進するために、遺族の方と連絡を取りたいので、「戦没船を記録する会」の協力をお願いしたいとの連絡があった。

これに対し次のような返書を送った。

（返書）

1、彦山丸・金剛丸関係部分の資料は、別表（省略）の通りです。

2、遺族の方の連絡先等現状は本会も把握できておりません。

3、彦山丸の戦没時の状況＝沖縄本島瀬底泊地向け航行中、S20 年 1 月 22 日 0700 頃 26.44N -127.37E において米艦載機 4 機以上延 250 機と交戦、直撃弾被弾、火災発生、付近陸岸乗り上げたが全焼、船員 13 名、警戒隊 1 名死亡。

本会で分かる情報は以上です、不十分で申し訳ありません。貴重な情報をありがとうございました。

4、金剛丸についても調査しました。

沖縄で初めてのパネル展示
全日本海員組合「定期全国大会」の沖縄開催を機に

監事　片岡　和夫

2017 年 11 月 6 日（月）～8 日（水）にかけて沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで全日本海員組合（以下「組合」という。）の定期全国大会が

開催され、それに合わせて戦没船を記録する会は、沖縄の地で初めてパネル展示会を開きました。

初日の６日は、大会会議場とパネル展示会場が離れていたという背景もあって、見学者の数はまばらでしたが、大会出席の代議員や若い組合執行部員の若干名が足を運び、耳を傾けてくれたのが救いでした。また、地元沖縄県の「琉球新報」という新聞記者の取材を受ける機会に恵まれたのが幸いでした。一緒に出展を担当した栗原事務局長は、記者の取材に応えて、戦没船を記録する会の歩みや、展示パネルの内容について詳しい説明を行いました。取材を終えた記者は、DVD「海なお深く―戦没船と船員の記録―」の映像を見ながら、是非、県民のみなさんにも見せたいイベントだとのコメントを残して展示場を去っていきました。

翌７日（火）の展示会場は、琉球新報（朝刊）の取材記事「船員の美術展　宜野湾で開催　戦没船の記録も」が写真入りで掲載された影響もあって、沖縄県民の見学者が多数足を運んでくれました。なかでも、沖縄・民間戦争被害者の史実を調査・研究しているグループの女性研究者が、悲惨な戦争を体験した地元沖縄の歴史を引き合いに出しながら、船員の悲愴な体験は、戦時中の国家権力者の「無謀で、無責任で、無知蒙昧の徒」であったことを改めて認識することができました。とわたしたちに語ってくれた言葉が強く印象に残っています。また、日本水産の漁船に船長として乗船した父親が、ベトナムの沖合で「撃沈され戦死した」という公報の正確な事実関係を調べて欲しいと相談に来た老人もいました。早速、日本殉職船員顕彰会に協力を求め、調査の結果、台湾（当時は日本が統治）の基隆港籍船だったことが判明した事実を伝え、感激に涙して握手を交わす場面もありました。

学童疎開船「対馬丸の犠牲者」への鎮魂

大会最終日の８日（水）は、会議に先立ち、学童疎開船「対馬丸」の語り部による講話を大会出席者と共にわたしたちも聴くことができました。対馬丸の沈没で犠牲となった子どもたちと乗船者の無念や戦争の悲惨さ、平和の大切さを後世に語り伝える活動の重要性を再認識しました。その後、パネル展示会場を訪れてくれた対馬丸記念館の常務理事と学芸員（いずれも女性）とお話する機会を得ました。お二人からは、犠牲者の遺品や遺影の収集に困難を極めている活動の苦労話がありました。わたしたちは、展示パネルの撤収作業を終えた後、対馬丸記念館を訪ね、高良（たから）会長をはじめ、関係者のみなさまの施設案内と運営に関する説明を聞くことができるなど、沖縄のパネル展示で多くを学びました。

本会の活動日誌

（2017 年 5 月～2018 年 1 月）

＜2017 年＞

○　5 /27~28　東京海洋大学海王祭参加
　　（パネル展示会）
○　6 / 2 ~ 4　平和のための戦争展 in よこはま参加
　　（パネル展示会）
○　6 /29　　総会・会報発行打合せ（事務局）
○　7 /　8　　問合せ「彦山丸戦没船員について」
○　7 /15　　会報第 61 号発送
○　7 /28~30　平和のための埼玉の戦争展
　　（パネル展示会）
○　8 /　2　　本会定期総会開催
○　9 /　5　　会報第 62 号発送
○　9 /20　　ホームページ全体整備修正
○11/6~8　　海上美術展参加（那覇）

<2018 年＞

○　2 /8　　問合せ「戦時標準戦につて」返信 FAX